

## 令和2年度年間指導計画を見直す際の参考資料

### <体育>

○臨時休業や感染拡大の防止を踏まえ、標準時数を減らし22週の授業日数で指導計画を見直す。  
(体育は30%カット)

◎限られた時間の中でも、児童が安全に(感染拡大防止も含む)楽しく学習に取り組み、学習成果を実感できるよう配慮する。

◎実施する単元については、まとまった時間を取り、評価計画と合わせて指導内容を見直す。

### ○教育課程編成の際の留意点

- ・2年間の内容のまとまりを踏まえ、計画を見直す。  
(小1・2年、小3・4年、小5・6年、中1・2年、中3・高1)  
※6年生であれば、5年生で行った内容は、行わない方法も考えられる。  
※2年間のまとまりの中で、履修漏れがないように注意する。
- ・3密を避けることが難しい単元は、実施時期を後半にしたり、次年度の計画に変更したりする。  
※小学6年生のように、次年度の計画に変更することができない(昨年度の実施がなく履修漏れが生じる場合)時など、資料とを活用し座学として学習を行うことも考えられる。
- ・保健領域については、計画通り実施する。

### <小学校第1学年における領域別実施割合の例>

	領域	時数	実施時数	カット時数	実施割合(%)	備考
必修	体づくり運動系	21	21	0	100	
必修	器械運動系	17	0	-17	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	16	16	0	100	
必修	水泳運動系	10	0	-10	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	27	23	-4	85	
必修	表現運動系	11	11	0	100	
必修	保健領域	0	0	0	0	
	合計時数	102	71	-31	70	

### <小学校第2学年における領域別実施割合の例>※1年時に全ての領域・分野を実施している場合の例になります。

	領域	時数	実施時数	カット時数	実施割合(%)	備考
必修	体づくり運動系	21	21	0	100	
必修	器械運動系	17	0	-17	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	18	18	0	100	
必修	水泳運動系	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	29	22	-7	76	
必修	表現運動系	12	12	0	100	
必修	保健領域	0	0	0	0	
	合計時数	105	73	-32	70	

<小学校第3学年における領域別実施割合の例>

	領 域	時数	実施時数	カット時数	実施割合 (%)	備 考
必修	体づくり運動系	16	16	0	100	
必修	器械運動系	20	0	-20	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	18	18	0	100	
必修	水泳運動系	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	27	23	-4	85	
必修	表現運動系	12	12	0	100	
必修	保健領域	4	4	0	0	
	合計時数	105	73	-32	70	

<小学校第4学年における領域別実施割合の例>※3年時に全ての領域・分野を実施している場合の例になります。

	領 域	時数	実施時数	カット時数	実施割合 (%)	備 考
必修	体づくり運動系	16	16	0	100	
必修	器械運動系	20	0	-20	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	18	18	0	100	
必修	水泳運動系	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	27	23	-4	85	
必修	表現運動系	12	12	0	100	
必修	保健領域	4	4	0	100	
	合計時数	105	73	-32	70	

<小学校第5学年における領域別実施割合の例>

	領 域	時数	実施時数	カット時数	実施割合 (%)	備 考
必修	体づくり運動系	11	11	0	100	
必修	器械運動系	17	0	-16	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	16	16	0	100	
必修	水泳運動系	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	21	19	-2	90	
必修	表現運動系	9	9	0	100	
必修	保健領域	8	8	0	100	
	合計時数	90	63	-26	70	

<小学校第6学年における領域別実施割合の例>※5年時に全ての領域・分野を実施している場合の例になります。

	領 域	時数	実施時数	カット時数	実施割合 (%)	備 考
必修	体づくり運動系	11	11	0	100	
必修	器械運動系	16	0	-16	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	陸上運動系	16	16	0	100	
必修	水泳運動系	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	ボール運動系	22	19	-3	86	
必修	表現運動系	9	9	0	100	
必修	保健領域	8	8	0	100	
	合計時数	90	63	-27	70	

◎各学校の実態に応じた工夫例（学級数や施設、用具、指導体制に応じて）

・ボール運動系

※ゴール型として体育館でのバスケットボールを予定していたが、3密を避けることが困難なため、校庭でのサッカーに変更して実施する（校庭に複数のコートを準備し、コート内の人数を減らす等の工夫をしながら行う）

※接触を多く伴う試合部分は、映像資料等を活用しながら、ボールを持たないときの動きなどを座学として学習する

・体づくり運動系や表現運動系

※ペアやグループでの活動をなくし、個の運動を中心に行う

・器械運動系

※体育館でのマット運動を予定していたが、用具の消毒や活動中の3密を避けることが困難なため、校庭での鉄棒運動に変更して実施（こまめな鉄棒の消毒や児童の手洗いを徹底する）